



修郎先生の事件簿2

小池雄一氏

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生修郎(さしゅう・しゅうろう)は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

大谷翔平 大変だ、大変だ、お母さんから国際電話でお盆休みに家族総出でインドネシアに遊びに来るって言うんだ。

佐生修郎 おお、あの背高のっば一家が押し寄せるのかあ。空港ではさぞかし目立つだろうねえ。

大谷 観光目的で30日間以内の滞在。「ビザ免除」で大丈夫だよな。

佐生 残念ながらまだ駄目だ。「ビザ免除」はASEAN加盟国の国籍人にだけ適用され、日本人は解禁されていない。

大谷 ということは、「VOA到着ビザ(VISALON ARRIVAL)」で入国だね。

佐生 さよう。現在、「VOA到着ビザ」は「空港VOA」と「eVOA」との二通り

ある。大谷 両親は初インドネシアだから、できるだけ簡単な方法が良いのだけ

だ。佐生 そんなら「eVOA」の方が適当かな。オンラインで事前申請すれば、ビザがPDFファイルで手元に届く。それを印刷して持って飛べば、空港の入国審査カウンターではその印

刷したビザを提示するだけで入国ができるぞ。

大谷 オンライン申請かあ。両親はシステムが苦手だからなあ。独力ではできないかも。

佐生 それなら翔平君が代わりに入力してあげることだ。アクセスIDやパスワードは特に無いからね。ビザ代がクレジットカード払いになるので、誰のカードで支払うのかさえハッキリさせておけば問題なしだ。

大谷 よし、eVOA申請で用意するモノと手順を詳しく教えてよ。

佐生 まずは、次の5つを準備する。①パスポート顔写真②ペーシの画像JPGデータ③顔写真の画像JPGデータ④クレジットカー

夏休み、家族が来る！

タンを押し中へ入る。

大谷 アカウントの取得やログインさえ不要で、「APPPLY」ボタンを押して申請を開始するだけで良いのだね。

佐生 目的を「TOURISM」、ビザの種類を「Visa on Arrival 30 Days」、滞在期間「30D」を選択。「Detail&Apply」ボタンを押した後、画面指示に従って情報入力していき、画像JPGデータもアップロードしていく。

大谷 最後にビザ代50万ルピアをカード決済すれば完了だね。

佐生 決済完了後、数時間以内に指定したメールアドレス宛てにPDFデータでビザ(eVOA)が送られて来る。

大谷 それを印刷して手元に持って飛行機に乗れば良いのだね。簡単だ。これならできる。

佐生 ひとつ注意点。ビザ(入国の為の事前許可)の有効期間は90日間だ。発行日から90日以内にそのビザを使って入国する必要がある。ビザ申請をあまり早くすると、期限切れとなり入国ができなくなるよ。

大谷 OK。でも、システムエラーに見舞われると困るから、念のため「空港VOA」の手順も聞いておこうかな。

佐生 OK。まず、入国審査カウンターへ向かう前に「PAYMENT SERVICE」カウンターに並んでビザを買う。ビザ代は50万ルピアだが、日本円だと5千円、米ドルなら35ドルのキャッシュで支払が可能だ。カード払いは受付けていないから注意して。

大谷 ビザを購入後は入国審査カウンターへ並び直し、パスポートとビザ代レシートを提示すれば、入国ステッカーがもらえるって

佐生修郎 心得の条

一 夏休み、家族がインドネシアに来る場合には、ビザ免除が未だ解禁されていないので、VOA到着ビザで入国すべし。

二 VOAには「空港VOA」と「eVOA」と二通りの方法がある。事前にシステム申請する「eVOA」か、到着時に空港で買う「空港VOA」かのどちらか自分にあった方法を選択すべし。

ことだね。

佐生 入国審査カウンターを抜けた後には、預入れ荷物の引取り、そして最後に税関申告がある。今では紙での申告は不可で、電子申告しかできないようになっていから気を付けて。

大谷 eCDだね。このHPPにアクセスして入力していくのだよな。

「https://ecd.beacukai.go.id/」

佐生 eCDは入国日の2日前からデータ入力が可能だ。だから、出発前に日本のネット環境を使ってアクセスし、入力を済ませればスムーズに入国できると言える。

大谷 わかった。よし、ここまで聴いておけば何とかなるだろう。

佐生 翔平君は仕事熱心なだけでなく親孝行でもあるのだね。立派な人だ。見習わなくてはね。

こいけ・ゆういち FPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタップへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。57歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。

「修郎先生の事件簿2」は、原則、毎月第1水曜日に掲載します。